

市長記者会見記録

日時：2017年 4月18日（火）14時00分～14時46分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：イベント開催中！街のイベントをひとまとめする「かわさきイベントアプリ」がスタートします！（総務企画局）

<内容>

《イベント開催中！街のイベントをひとまとめする「かわさきイベントアプリ」がスタートします！》

司会： ただいまより市長記者会見を始めます。本日の議題は、イベント開催中！街のイベントをひとまとめする「かわさきイベントアプリ」がスタートします！となっております。

それでは、福田市長からご説明いたします。市長、よろしく願いいたします。

市長： よろしく願いします。それでは、このたび川崎市内のイベント情報を官民間問わずスマートフォンを通じて発信する「かわさきイベントアプリ」が完成いたしましたので、ご説明をいたします。お手元に資料も用意しておりますが、スクリーンのほうをごらんいただきたいと思います。

まず、開発の背景と目的でございますが、本市ではさまざまな情報や取り組みを広く発信するため、昨年4月から「かわさきアプリ」として、子育て、防災、ごみ分別等のアプリを公開していますが、イベント情報の発信につきましては子育て分野に限定されておりました。

一方で、かねてより地域のイベントに関する情報を知りたいが、情報がどこにあるかわからないというご意見を多くいただいているとともに、地域の団体などから、市民に向けてイベント情報を発信するツールがないというご意見を多くいただいております。

そこで、子育てに限らず幅広い分野で、市民の皆様が知りたい情報をタイムリーに、官民間問わず多様な主体から情報を集約し、スマートフォン等を通じて発信する新たな情報発信ツールとして、「かわさきイベントアプリ」を開発したところでございます。

本アプリの特徴でございますが、1つ目は情報を必要とする人へ、必要なタイミングで的確に提供すること。2つ目は、行政からだけでなく、市民団体や事業者からも情報を発信すること。3つ目は、位置情報と連動した誘導が可能であること。4つ目

は、川崎市内の各地域に関するニュース、まめ知識、お散歩マップなど、地域に関するコンテンツもあわせて発信することなどでございまして、こうした市民生活に密着した情報を取りまとめ、わかりやすく発信するスマートフォンアプリケーションとなっております。ぜひ、皆様にはご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

詳細につきましては、担当からご説明をいたします。

ICT推進課担当課長： 総務企画局ICT推進課の竹山でございます。

それでは、「かわさきイベントアプリ」の詳細につきまして、ご説明をさせていただきます。

今回、提供いたします「かわさきイベントアプリ」ですけれども、昨年の4月にリリースいたしました「かわさきアプリ」の新たなサービスとして開発を進めてきたものでございまして、市民の皆様には本日からご利用いただけるようになってございます。

アプリの利用に当たりましては、ご利用の端末がiPhoneであればApp Storeのほうから、Androidの端末でございましたらGoogle Playのほうからダウンロードをしていただきます。もちろん利用に当たっては無料をご利用いただけますので、多くの皆様にご利用いただきたいと思っております。また、イベントアプリを知っていただくため、本市ホームページをはじめ市政だよりなど、さまざまな媒体で周知を図ってまいりたいと考えております。

イベントアプリで提供させていただく情報でございますけれども、こちらの表にございますように、主にイベント情報ですとか、オープンデータで提供している川崎のローカル情報を提供するようなまめ知識ですとか、外部サイトから取得した地域のニュースを提供させていただくニュースの機能ですとか、各区で発行しているお散歩マップを電子化いたしましたガイドマップの機能などがございます。

イベントアプリの情報の登録の流れでございますが、大きく2つございまして、上の段になりますけれども、まずは市の情報を直接提供するという方法がございます。こちらはホームページのデータと自動連携させておりまして、ホームページに登録したデータを自動的に「かわさきイベントアプリ」のサーバーのほうに提供いたしまして、直接コンテンツを公開するというルートがございます。

もう一つは、中段になりますけれども、今回の目的でございます、民間の方も直接情報コンテンツを登録できるという機能でございます、あらかじめ権限付与の申請をしていただきまして、アプリの登録規約に同意していただいた上で、市のほうからIDとパスワードを交付いたしまして、そのIDとパスワードに基づきまして、アプ

リのサーバーのほうに情報を登録していただくという機能がございます。また、地域のニュースサーバーと自動連携するというところで、データのやりとりをするという機能もございます。

「かわさきアプリ」の画面に沿って説明させていただきます。「かわさきアプリ」のアプリケーションをダウンロードしていただきますと、こちらのよう画面上に「川崎イベント」というアイコンが表示されます。こちらをタップ、押ししていただきますと、一番最初に起動したときにはユーザー設定と初期設定というところでいろんなフィルター情報を入れていただく形になります。その際に、このときに設定した情報に基づきまして、次回以降、起動したときに住所情報とか、欲しい情報とか、そういったフィルターを指定しておくことによって、適した情報が表示されるようになります。

実際には、2回目以降、起動していただいた場合には、こちらから、トップページという画面に遷移いたしまして、こちらにイベント情報が表示されるということになります。詳しい情報を見たい場合には、こちらのほうからさらにこちらを押ししていただくと、さらに詳しいイベント情報が表示されるという仕組みになってございます。

次に、検索機能についてご説明させていただきます。一番左側のこちらの検索画面ですけれども、欲しい情報のカテゴリーとして19種類の情報を登録できるようになってございまして、その都度、必要な検索したい条件をこちらで設定していただいて、検索実行していただきますと、該当する検索結果が隣の画面のように表示されるようになっております。先ほどと同じように、詳しく知りたいという情報がございましたら、さらにその項目を押ししていただきますと、こちらのイベント情報ということで、さらに詳しい情報が表示されます。

イベント情報にもいろんな項目がございまして、こちらの画面では静止画になっているんですけれども、スクロールしていただきますと、下のほうに「開催場所」という項目もございます。こちらは地図の仕組みと連動しておりまして、機能としてはルート表示という機能と目的地という表示がございまして、ルート表示の機能につきましては、スマートフォンで持っているGPSの情報と連動しておりまして、現在地からイベントの開催場所へのルート案内が表示されるようになっております。一番右側に表示されているのは、実際の検索画面の結果のイメージでございまして、目的地の表示を押ししていただきますと、こちらはイベント開催場所の周辺の地図が表示されるという仕組みになってございます。

それ以外の機能についてですけれども、大きくは残り3つございまして、1つは地域に関するまめ知識を表示するという機能でございまして、こちらはオープンデータ

として提供されている地域の情報をあらかじめ取り込んでおきまして、上のほうに「今日のまめ知識」という項目がございますけれども、こちらに日がわりで、違う情報が表示されるという仕組みになってございます。

次に、地域のニュースでございます。地域のニュースにつきましては、お住まいの地域のニュースを表示する機能となっておりまして、タウンニュース様の協力をいただきまして、同社が地域ごとに編集・配信しているウェブサイトのほうから、見出し情報と写真を表示する機能を実装してございます。まめ知識及びニュースにつきましては、アプリで概要を表示いたしまして、詳細を確認したい場合には、情報提供元のサイトへ誘導する仕組みとなっております。

次に、ガイドマップ機能のほうをご説明いたします。右側2画面でございますけれども、こちらは各区で作成しておりますお散歩マップ等の情報がございまして、そちらを電子化いたしまして、ルート検索等でルート表示ができるようにしている機能でございます。一番右側の画面の緑の線がルートになっておりまして、ルート上に幾つか写真が張ってあるんですけれども、こちらのほうをタップしていただきますと、施設等の情報が表示されるような仕組みになってございます。こちらの情報につきましては、今後オープンデータ化して公開をしていく予定でございます。

「イベントアプリ」の紹介については以上でございます。こちらでは、これからイベント情報を充実させてまいりたいと考えておりますので、皆様にはご協力のほど、よろしくお願いいたします。

また、「イベントアプリ」でイベント開催情報を発信していただける事業者さん、あるいは団体様を募集しておりますので、ぜひともご周知いただきますよう、よろしくお願いいたします。

担当からの説明は以上でございます。

司会： ありがとうございます。それでは、ただいまご説明いたしました「かわさきイベントアプリ」に関する質疑に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑応答につきましては、本件の質疑終了後、改めてお受けいたします。

それでは、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

幹事社： では、幹事社からこの件で問い合わせというか。まず、既に子育てアプリというか、それに次いで第2弾というか、そういうことだと思っておりますけれども、こういうイベント系のアプリというのは、例えば都道府県とか政令市レベルでは、まずそういったのがあるのかというのと、プラスして、コンテンツ的に、ここが少しほかの自治体等で、ある場合に、この辺が非常に売りであるというか、PRポイントな

どがありましたら、その2点、伺いたいのですが。

市長： ありがとうございます。まず1つ、アプリで観光情報として発信している、観光情報を出しているところというのは、京都市、福岡市などであると伺っておりますけれども、一方で、こういった地域のイベントだとか、観光情報では必ずしもないような、そういったイベントについて、官民あわせてのこういった情報発信ツールというのは、少なくとも政令指定都市では初めてという形になります。

幹事社： 政令市では初めてということですか。

市長： はい。

幹事社： あと、中身的にはどうでしょう、どのあたりがかなり、全般的に真新しいということになるのでしょうか。

市長： そうですね、要は、先ほどの説明と繰り返しになるかもしれないんですけども、いろんな地域で活躍している、活動されている団体の皆さんというのが、自分たちのイベントだとか内容を知ってもらいたいということ、ニーズはあるんですが、市政だよりも載せてほしいといったお声はたくさんあるんです。ただ、紙媒体ではどうしても情報量というのが限られておりまして、こういったニーズをしっかりと受けとめて、市民の皆さんにしっかりと周知をしていくという、そのプラットフォームを作ったという意味では非常に大きいのではないかと思いますし、自分の、いわゆる関心事に対する、最初から設定できるというのは、そういう意味では探しに行くというよりも、むしろ引き出してくるという、出てくるので、そういう意味では、必要な情報だけをちゃんとお届けすることができるのではないかと考えています。

幹事社： そうしますと、民間の細かな身近な情報というんですか、それが1つ出していけばということなんではしょうけれども、中身的には、比率的にはどのぐらいの、例えば市の情報がまずあって、こういった民間の身近な情報というのがあると思うんですが、割合的にはどのぐらいの構成、やってみないとわからないと思うんですけども、考えているのでしょうか。

市長： おそらく民間のほうが大多数になっていくのではないかと思います。これは感覚的な話ですけども、先月から情報発信をする方ということで募集を開始しましたが、現時点で30団体が登録を既にしていただいていると。これが、あ、なるほど、いいものだなということになれば、いろんな団体さんが登録して今後増えていくと思います。現時点で、イベント情報、今日からスタートになりますけれども、既に110件の登録というか、情報がアップされているということですので、今後さらに増えていけばいいなと思っています。

幹事社： その30団体というのは、ちなみに種別的にはどのような団体でしょうか。

ICT推進課担当課長： 市長のほうから先ほど30団体と申しあげましたけれども、それから少し数が増えておりまして、現在42団体をいただいております。市が関連する団体等が今は30団体ほど、あと完全の民間団体、フロンターレさんとかも登録いただいているんですけれども、これが今12団体ございます。

以上でございます。

幹事社： そうすると、すいません、種別的には、スポーツ団体とか文化団体とか、そういう言い方……。

ICT推進課担当課長： はい、そうです。今は、種別としては、音楽、スポーツ、文化関係が多いというところがございます。

幹事社： わかりました。幹事社からは以上です。

記者： よろしいですか。

昨年始めた子育て、ごみ分別、防災の各アプリ、これは所管のご担当かもしれないんですが、利用状況と、あと今回、新しくアプリを始めるに当たって、3つの、例えば利用状況であるとか、コンテンツの内容であるとか、何か課題点を踏まえて何か改善したことがあるのかということをお伺いします。

市長： まず、私からダウンロード数と利用状況のことなんですけれども、昨年4月1日から開始しておりますので、ちょうど1年になります。初年度の目標というのは、ダウンロード数1万件という設定をさせていただいておりましたけれども、「かわさきアプリ」のポータルアプリが1万5,500件ということになっておりまして、防災アプリが1万400件、子育てアプリが1万900件、ごみ分別アプリが2万7,900件と、いずれも目標はクリアしております。

アクセス件数でいきますと、子育てアプリが一番多くて102万件、次に多いのが防災アプリで41万件、ごみ分別アプリが30万9,000件、ポータルアプリが20万9,000件。というふうになって、着実に利用されていると考えております。

今回のアプリケーションもより幅広い形なので、ぜひ多くの方に利用していただきたいと思っております。

課題については、運用しながら日々改善ということなんだろうと思っておりますけれども。

記者： ありがとうございます。あと、アプリだと、新たなニュースが届いた場合、よく通知みたいなのがありますよね。ああいう機能はあるんですか。

ICT推進課担当課長： 画面に通知機能というのがございまして、そちらに新着情

報として表示されるようになってございます。

記者： そうすると、イベントが追加されるたびに通知が来るんですか。

ICT推進課担当課長： 通知というよりは、アプリの機能の中に「新着情報」という項目がございまして、そちらのほうをごらんいただくと、新しく追加したイベントの情報が確認できるというところでございます。

記者： わかりました。

あと2点あるのですが、地域の情報の中で、タウンニュースさんを選ばれた理由というのはあるんでしょうか。

ICT推進課担当課長： こちらですけれども、タウンニュース社さんですけれども、地域別と分野別にもともと情報発信しているサイトがございまして、そちらと機能的に連携できるということがございましたので、タウンニュースさんにご協力いただきまして今回の仕組みを構築してございます。

記者： 特に市が出資しているとかいうことはないんですか。

ICT推進課担当課長： そういったことはございません。

記者： 最後です。登録規約にあるのかもわからないんですが、登録したいという団体が、例えばですけれども、先月、中原市民館で、なかったにしても、ヘイトスピーチを行うような蓋然性があるような団体さんが登録したいであるとか、あと宗教的なお話とか、そういうところの、何ていうんでしょう、登録できる団体に制約があるかどうか。

市長： では、私から。まず、政治、宗教、特定の商品の宣伝、あるいは違法性のあるものなどの、登録禁止事項に該当しない情報を発信するのであれば、企業をはじめ誰でも登録することができますけれども、登録情報が登録禁止事項に該当する場合、今申し上げたようなですね、これは本市の判断によって削除することといたしております。

記者： じゃ、登録はできるという……。

市長： 登録の段階で、こういったものはできませんというふうなことになっていますので。

記者： さらに、それが登録できても、そういった内容だと削除されるということですか。

市長： そうですね。

記者： わかりました。ありがとうございます。

市長： 利用規約に同意していただくという、利用規約があつて、同意していただく

ことを前提としているということがまずフィルターとしてあって、それがあったとしても、もしそういう危険性がある場合には、削除をこちらでできるという形です。

記者： ありがとうございます。

記者： イベント検索機能ですけれども、これ、複数選択というのはできるんでしょうか。

市長： はい、できます。

記者： その場合の、例えばなんですけれども、全部チェック入れた場合の検索精度とか、どういう感じなんですか。

市長： 全部の場合には、私も今登録しておりますけれども、全部登録しておりますが、全部のいわゆる情報は出てきます。

記者： いわゆる、それぞれにひっかけるんじゃないくて、それに該当したものは全部ひっかかると。

市長： はい。

記者： わかりました。ありがとうございます。

記者： すいません、これをつくるに当たってというか、これを運用するに当たってなのかわからないんですが、その費用的なものというのはどのぐらいかかるんですか。

ICT推進課担当課長： イベントアプリの開発費用につきましては、約500万円となっておりまして、年間の運用経費が約200万円というところでございます。

記者： 毎年200万かかるんですか。

ICT推進課担当課長： そうです、はい。そういったことでございます。

記者： あと、このイベント情報は、別に有料のものでもいいんですか。例えば、コンサートの5,000円とか、そういうのもいいんですか。

ICT推進課担当課長： そちらは大丈夫です。

記者： わかりました。

司会： いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本件につきましてはこれで終了いたします。ここで関係理事者が退席いたします。よろしくお願いいたします。

(市政一般)
《踏切事故について①》

司会： 続きまして、市政一般に関する質疑応答をお願いいたします。

進行につきましては、改めて、幹事社様、よろしくお願いいたします。

幹事社： 幹事社です。よろしくお願いいたします。先週の土曜日に京急線の八丁畷駅で事故がありましたけれども、あらためて、市長のご所感を聞かせていただければと思います。

市長： 本当に痛ましい事故で、まず、お亡くなりになられたお二人の方に心からお悔やみを申し上げたいと思います。特に、救出にあたられて亡くなられた児玉さんに関して、もうご家族のことを考えますと、本当にいたたまれない思いでありますし、こういった事故が本当に起きてほしくないということを改めて強く思いました。

幹事社： 2013年に横浜市緑区のほうでも、踏切で倒れている方を助けようとした方がひかれてしまって亡くなったという事故がありまして、そのとき県ですとか横浜市のほうから、感謝状というものが贈られたりしたんですけれども、今回、川崎市ではそういったものを贈ったりですとか、市長からそういう直接のお言葉というのは、そういうのは考えたりはされていますか。

市長： ちょっとまだ、現時点では考えておりません。

幹事社： 関連して、その踏切なんですけれども、高架化の話が40年前ぐらいから、そういう話はある、いまだに実現されていないと。結果論ではありますけれども、もし高架が既にできていれば、あの事故は防げた可能性もあったわけですし、そこについてはいかがでしょうか。

市長： 高架化という話であれば、本線だけではなく、現在進めている大師線、それは高架ではありませんけれども、それから南武線の話もそうですし、市内では現在進んでいるものもあれば、今の京急のところのように進んでいないところもあって、また踏切も、いわゆる国で指定される緊急対策踏切も市内に40カ所もあるということですから、これは首都圏のみならず、都市部の共通の悩ましい課題であることは間違いありません。

本来であればというか、全部そういうものが解消できるというのが最も望ましい形ですが、それはしっかりと着実に優先順位をつけて進めているところがあります。

この事故と、何ていうんでしょうか、踏切の高架化があったらどうだったのかということというのは、ちょっと一概に、これができていれば、全てがこの事故が防げたのかというのは、何とも言いがたい部分がありますけれども、しかし実際に危ない踏切であること、危険な状態であることは間違いのないわけでありまして、引き続きこういった踏切対策には取り組んでいきたいと思っています。

幹事社： わかりました。ありがとうございました。

《キングスカイフロントについて》

幹事社： 別件なんですけれども、殿町のキングスカイフロントの話なんですけど、3月の末に、すいません、その前段で、既にほぼ区画が、立地が決まって、ほぼ埋まって、キングスカイの。企業とか機関の立地が決まって、この前、交流会があって、進出している機関とか企業のかなりトップの方、めったに一堂に会する方ではない方々が一堂に会したということで、市長もそのときに討論会というかパネルディスカッションに出られて、そのときに、次のステージというか、これからは人の交流だったり、あと課題としては、アメニティーというか快適環境というか、そういったところ。要するに、コンビニもやっと最近できて、それがニュースになるくらいだというお話が笑い話で出ましたけれども、今後、市としては、特に要求としては、要請としては衣食住とか、あるいは今後研究者の方が来て、家族の方も滞在できるというか、学校も含めてなんですけれども、いろんな声がありまして、市としては、最終的には高機能のまちづくりというのを構想としては描いていらっしゃると思います。市長がそのときには行政としてできることをやりたいんだというお話がありましたけれども、改めてそのあたり、今後の市長のお考えというのをお聞かせいただけないでしょうか。

市長： まず、こういう世界的な研究機関が集まってといったところには、当然そこに働く、あるいはそこに交わってくる、いわゆる研究者が世界的に集まってくるわけであって、そこに住まう人たちもたくさんいる。そういった国際人材の衣食住というか、生活環境を総合的につくり上げていくということは、国際戦略拠点を形成していく上で、ある意味必須の要件だと思っています。

そういった意味で、どういうニーズがあるのかということと、それから市でできることは何なのかということと、やはり顔の見える関係でつくっていくということがとても大事だろうと思っています。行政でできることと、それから例えば今回のアメニティーみたいな話になりますと、新しくできますホテルに付随していくような、そういったサービスですね、こういったのは、まさに民間でやっていくわけなんですけれども、それも川崎市と、あるいはそこに立地している企業の皆さんと意見を交換しながら、どんなアメニティーが必要なのかというのをホテルの皆さんにも伝えていく、こういう作業を繰り返していく中で、だんだん形づくられてきたというのがありますので、こういったことを順々につくり上げていくということが大事だと思います。住宅環境、それから医療の環境、学校、こういったところというのは、これからも臨海部にとつ

でも大切な機能だと考えておりますので、こういったことを進めていきたいと思っています。

幹事社： そうしますと、当面は、今お話に出ました大和ハウス工業さん、ホテルですね、当面は研究者というか、滞在される方を念頭にしたホテルだったり、一部コンビニが入ったり、いろいろあるらしいですけれども、その辺の使い勝手的なところは市がちょっと入って、要望に応じていってもらいたいな形のイメージですか。

市長： そうですね。これは、キングスカイフロントだからということには限らないかとは思いますが、特に戦略拠点として整備しているから、ある意味では市にとっては特別、普通のところとは違うのかもしれませんが、しかし、この前、集まっていた皆さんのというのは、要は企業の自治会みたいなものなんですね。ですから、企業の自治会の皆さんと行政が、それぞれの適正な役割分担をどういうふうを目指していくんだということを共有しながら、それぞれやることをやりましょうという形で物事を進めていくというのが、最もまちづくりを進めていく上で大事なスタイルかと思っていますので、そういった点に留意しながら進めていきたいと思っています。

幹事社： 聞くところによると、今の構想ですと、例えば電柱類を地下化するとか、そういったところは1つ検討課題とされていますけれども、もうちょっと踏み込んだ形でさらに検討されているようなこと、なかなか予算を伴うので難しいかと思うんですけれども、そのあたりいかがでしょうか。

市長： 今、この前でも資料に出たようなことというのは進めていますし、安全面だとか、そういったところも含めて今幾つも課題が挙がっていますので、それに着実に取り組んでいくということが、まずファーストステップだろうなと思っています。

幹事社： わかりました。ありがとうございました。

《踏切事故について②》

記者： すみません、京急の事故に戻ってしまうんですけれども、京急の調べで、ここ数年に起きた八丁畷のあの踏切での死亡事故6件のうち5件が自殺、言うならば、ものすごくスピードを出してくる電車に対して入っていきやすいような、踏切ってどこでもそうですけれども、特にあの踏切は目立っているということがあると思うんですが、特に今回の件を受けて、改めてって、以前にもあったのかどうも含め、特にあの八丁畷の踏切に関して、京急に安全対策を申し入れるとか、そのようなことはございますか。

市長： これまでも京急の皆さんとは安全対策についても話し合ってきましたし、これは過去にも、例えば「賢い踏切」の導入でありますとか、歩道部のカラー舗装ですね。

記者： 「賢い踏切」。

市長： はい。「賢い踏切」でありますとか、それから平成22年には歩道部のカラー舗装を行ったり、あるいは平成23年には非常用の押しボタンを増設して、2カ所から4カ所に増やしてということで、それなりと言ったらあれですけども、対策を講じてきたと。それは、やはり通行される人数が多いということがあって、そのことについて京急さんにご相談しながらやってきました。

踏切の周辺の歩道の拡幅みたいなこともやっております、なるべく環境整備はやってきたところでもありますけれども、ただ、ほんとうの抜本的な対策となりますと、やはり連続立体みたいな話ということになるんだと思います。

記者： 先ほどの記者さんからの質問にもありましたが、これ、まだ連続立体交差は具体的には実現……。

市長： なっていないですね。まだ事業認可を取得しておりませんし、はい。

記者： ありがとうございます。

記者： 引き続き踏切事故の件なんですけれども、先ほど市長おっしゃったように、国土交通省の関東運輸局と関東地方整備局のほうで踏切安全通行カルテというのが公表されていて、川崎市内でも緊急に対策の検討が必要な踏切として、緊急にですよ、対策が必要なのが40カ所、既に挙げられていると。そのリストを見ると、かなりの部分、南武線であったりとか、要はもういろいろ地下化であるとか、連続立体交差ないしは橋上駅舎化などで、歩行者をできるだけ踏切を渡らせないという方策は一定程度とられているのかなという印象を持ったんですけれども、私も土日、現場に行きまして非常に驚いたのが、踏切の遮断機がおりているのに、どんどんそれをくぐっていく人が後を絶たないんですね。それについて京急電鉄は把握していないという言い方をしているんですね。ちょっと考えづらいんですね。住民の方というのは、あそこは危なくてとてもじゃないけどと、いつ事故が起きてもしようがないよという話をされているんですけれども、そういった危険な踏切であると、国交省も既に言っていますし、市もそこはある程度把握はされていると思うんですけれども、優先順位的に決して立体交差であるとか、南武線の北部の駅でやっているような橋上駅舎化という話がいまだに出てきていないというのは、これはなぜなのでしょう。

市長： まず、危険な踏切であるということは、国も認定しているとおおり、私たちもしっかり認識しています。それについて、先ほどの記者さんの質問でもありましたけれども、抜本的な対策をするには、やはりほんとに連続立体交差みたいな形でやるしか、おそらく方法はないんだと思うんです。それをやるにはものすごく時間がかかるので、先ほど申し上げた、さまざまな対策というのをやってきたというところはございます。

じゃあ、これからさらに対策を強めていかなくちゃいけないといっても、やれる方策というのは実はそんなに多くはないと思っていますが、しかしこういった事故を受けて、京急さんともこれから相談、協議をしていきたいとは思っています。

記者： 確かに、連続立体交差が一番ベストだと思うんですけども、カルテに載った理由として国が挙げているのは、歩行者が多いということなんですね。実は、自動車がたくさんここを通るという形では指摘をしていないんです。ということは、これ、南武線で既にかなりやっていますけれども、橋上駅舎化して、そこを市の公道として通っていいよということにすれば、今は踏切をくぐって渡るような人たちというのは大勢いますけれども、こういう人たちが減らせるような効果というのは一定程度あると思うんですね。連続立体交差よりは、お金はもちろんかかりますけれども、比較的安い値段で、かつ短い期間でやれると思うんですね。

そういったところは、ちょっとこれまで我々取材している限り、京急の八丁畷の1号踏切に関しては、ちょっと見られない、ちょっとそこが非常に違和感があるんです。南武線についてはこれだけ非常に進んでいる。南武線については、実は都市計画もまだできていない。行政のプロセスとしては、実は京急の本線よりもおくられているにもかかわらず、そちらは進んでいるけれども、こちらは、昭和40年代から都市計画決定しているのに進んでいない。しかも、危険があるということは認識をしているにもかかわらず進まないというところの理由として、ちょっと説得力が今のところないと思うんですけども、どうなんでしょうか。いろんな方法があると思うんです。連続立体交差がベストであることはもちろんなんんですけども。

市長： そもそもなんですけども、連続立体交差も、踏切の乱横断を防止するために連続立体交差をするわけではないですよ。連続立体交差事業の目的というのはさまざまあって、それが地域分断だったりとか、あるいは交通、渋滞の解消だとか、さまざまある中の1つとして安全対策というのが含まれていますし、あるいは、今おっしゃった橋上駅舎の話にしても、橋上駅舎も安全対策のためだけにやっているわけではないということでもあります。

ですから、ある意味、踏切はおりたら、遮断したらとまるというのは当たり前の話で、その当たり前の話が、今回どういう原因かというのはちょっとまだ確定できていないのでわかりませんが、少なくとも過去5年間にあったうちの5件は、みずから命を絶つという行為であります。ですから、ある意味、突発的な、何ていうか、危険が察知できないとかという事故ではないので、今回の件はまだわかりませんが。しかし、そういったことを勘案すれば、記者さんのおっしゃっていることはわかります。ただ、それが、何ていうんでしょうか、全体の鉄道の橋上駅舎化だとか、あるいはそういったものと全てが連動するかどうかという、私はそうではないと思いますし、こういったものを、先ほど申し上げたとおり、計画的にしっかりやることが地域全体の交通問題の解消でありますとか、あるいは安全対策に資するんだと思っています。

ですから、こっちが事故が起きたから先に整備するというのは、必ずどこかを先にやればどこかがおくれるわけでありまして、それは優先順位をつけてしっかりと整備していくということが私は本筋だと思っています。

記者： 最後にもう一個だけなんですけれども、京急さんとも話を進めていくと、この事故を受けて新たに話をするというふうにとめまされたけれども、具体的にどういことが考えられるのかということと、あと、あそこは京急の100%子会社の臨港バスさんが誘導員の方を2人つけていて、踏切を見ているわけではないんですが、バスがあそこを曲がる時に、とても歩行者と接触しそうな非常に危険な場所なので、人をつけていらっしゃるんですね。実際、その方々は事故を見ていたりするので、バスを見ながら踏切を見ろというのもなかなか大変かもしれませんが、何らか、物じゃなくて人をつけるとか、その辺のことも含めて京急さんに要請をするとか、市としてそこに人を配置するとか、緊急にまずやることについて、何か腹案はございますか。

市長： ちょっと繰り返しになって恐縮なんですけれども、人が多いと、通行される人が、車ではなく人が多いということは私も認識していますし、私はあの箇所をよく知っていますので認識しておりますが、決して、あの線路の幅が長いかというと、極めて一般的なところだと思います。ですから、何ていうんでしょうか、今回の原因が自死ということですのであれば、また過去のことを振り返ってみても、であるならば、それはいくら誘導員をとという話というのは、基本的に問題の解決にはならないのではないかと思います。

先ほど申し上げたとおり、これまでいろんな対策を講じてきましたけれども、これから京急さんと安全についてお話もしたいと思っていますけれども、しかし、それ、言っ

ている自身が、果たしてどれだけのことができるのかといたら、かなり限界は最初からあるなと思っています。ただ、その中でも、どんなことができるのかというのは、模索はしていきたいとは思っています。

記者： わかりました。ありがとうございます。

《待機児童について》

記者： すいません、全然違う話題で恐縮なんですけれども、今日、庁内で待機児童の会議をされているかと思うんですけれども、3月末に国が待機児童の新基準ですか、育児休業中で復職意思のある方は待機児童数の基準に繰り入れてくださいというので、早ければこの4月1日時点のカウントに入れてくださいと。最終的には、もしそこで間に合わなければ1年後ですか、来年4月のカウントには入れてくださいという方針を出していると思うんですけれども、まさに今、担当から非常に細かく数字を精査して、5月の頭か4月の末かに4月1日の待機児童数を、今、作業されていると思うんですけれども、今回の4月1日の数字について、そういう新基準にのっとったものでカウントするつもりなのかどうなのかというのをちょっと教えてください。

市長： 担当局にも聞いていますが、最終的な取り扱いについては、今協議しているところなので、何ともはっきりしたことはまだ言えないんですけれども、しかし新基準でできるものというのは、新基準でしっかりやらなくちゃいけないと思っています。

ただ、先ほどおっしゃっていただいた育休中の取り扱いみたいな話は、これは新基準に適合して、このやり方でやってくださいと言われても、それに基づいてこの1年間やってきていないものですから、どうやって数字出すんでしょうかというのは、かなり難しいと思います。ですから、おそらくほかの自治体も、それは無理じゃないかなど。3月31日付で新定義がなされ、これでやってくださいと言われても、1年間ずっとやってきた中で、その対応の仕方はしていないと思いますので、そこは私の感覚からいっても難しいんじゃないかなと思っていますが、そのあたりは今後、ちょっと最終的には担当局と詰めたとは思っています。

記者： それ、ごめんなさい、つまり1年間、そういう形でやってきていないというのは、要するに窓口対応したときに、なかなか、復職意思があるからやっているという前提なんだろうが、中に、いろいろと育児給付金を得るために保留、通知が必要だと、そういう方もかなりの人数いらっしゃるということもあるんです。多分その振分けをしていないという意味でいいんですか。

市長： ちょっとそれは、担当のところ少し詳しく聞いていただきたいと思うんで

すが、おっしゃるとおり、いろんな形の形態があるので、そこを深く、どこまで掘り下げて聞いているのかと。

記者： それは窓口で。

市長： ええ、窓口でですね。いろんな、丁寧なアフターフォローをさせていただいている中で、どういうふうなところまでが聞き切っているのか、把握できているのかというのには、多少無理あるのではないかなという感覚はありますけれども、ちょっとそのあたりは確認したいと思います。

記者： あと、もう一点なんですけれども、これ、この前の会見、別の記者さんからも聞いていたと思うんですけれども、その基準、4月、無理だとしても、来年以降ですか、というのは、復職意思のある育休中の人も含めるとなると、かなり、数百人規模で増えてくるということになると思うんですけれども、市長のマニフェストというんですか、待機児童解消とかゼロとか、そういったものというのは、どういうふうに打ち出していられるおつもりなのかというのを教えてください。

市長： そうですね、ちょっと数字がどういうふうに出てくるのかというのがまだわかりませんし、ただ、とにかく繰り返し言っていますけれども、子育てしやすい環境をどうやってつくっていくかというものが最重要施策である位置づけというのは、これからも変わることはありませんので、それに向けてどういうふうな打ち出しをするかというのは、ちょっと今後の話になるかと思っています。

記者： わかりました。

司会： いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

市長： ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355